

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】 幼児教育課

会議の名称	第1回保育所運営審議会		
開催日時	令和4年7月29日(金) 午後6時55分～ 8時00分		
開催場所	茅野市役所 議会棟 大会議室		
出席者	※委員出席：戸田允文会長、鶴石悠紀副会長、上原美香委員、笹岡八重子委員、小澤佳奈委員、勅使川原はすみ委員、若御子雅英委員、唐澤裕子委員 ※市側出席者：山田教育長、五味こども部長、柳澤幼児教育課長、笹岡幼児教育係長、田中保育総務係長、湯田坂米沢保育園園長		
欠席者	野口幸子委員、澤渡裕子委員、上原諭委員		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍聴者の数	1人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
事務局	1 開会 (柳澤幼児教育課長) 2 委嘱状授与		
市長	3 あいさつ 皆さんこんばんは。 大変お忙しい中こうして皆様方にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。 新型コロナウイルスが猛威を振るっておりまして、茅野市では本日30名陽性者が確認されました。先ほどまで対策本部を開いておりました。病院の使用状況、病床使用率は長野県全体では35%超を超えておりますが、中央病院に関しては十分に余裕があります。また、重症者は非常に少ない状況ですので、本日もこうした会を開催させていただきました。手指消毒、手洗い、マスクの着用、大声でしゃべらないなど基本的な事を守っていただければリスクはかなり下がると言われていますのでよろしく願いいたします。 さて、本日は委嘱書をお渡しさせていただきました。茅野市の保育園の運営状況についてご説明させていただきご審議をいただくものになります。ここ最近、子ども達のとりまく環境、保育所に対するニーズがどんどん変わってきています。未満児への対応であったり、地域によって子どもの数にばらつきがあり、市としては、園の体制を組替ながら対応しています。できるだけ多くの皆さま方のニーズに答えたいと思っています。特に茅野市は、若者に選ばれるまちということを打ち出しています。やはりこの保育部分は大変重要な部分だと認識しております。皆さま方から大所高所からご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。		
事務局	4 自己紹介 会議時間短縮のため、お手元の名簿をご確認いただくことで省略		

市長	5 正副会長の選出 正副会長の選出につきましては、茅野市保育所条例の第4条によりまして、委員の互選となっております。どなたか立候補はございますでしょうか。無いようなので、では、事務局から腹案があるようなのでお願いします。
事務局	毎年恒例で大変申し訳ありませんが、慣例により、民生児童委員協議会の正副会長さんをお願いをしたいと思います。
市長	それではご異議がないということでご承諾いただきましたので、今年度、会長に戸田允文さん、副会長に鶴石悠紀さんに決定させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいいたします。それでは正副会長さん、前の席の方にお願いいいたします。それでは早速でございますが、正副会長様からご挨拶をお願いいいたします。最初に戸田会長さん、よろしくお願いいいたします。
会長	6 正副会長あいさつ 皆さんこんばんは。日並に熱い中、またお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。この審議会も毎年やられており、再任の方が多いのです。先ほどの市長さんの方からもお話ありましたように、こういう時期ですので、できるだけスピーディーに時間をかけずにポイントを押さえ、要領よく進めていければと思います。よろしくお願いいいたします。
副会長	皆さんこんばんは、鶴石悠紀と申します。私は茅野市民生児童委員協議会の副会長をしておりますが、宮川地区の民生児童委員の地区会長と担当区は長峰です。長峰の半分の地区の住民の地域福祉を担当しております。どうぞよろしくお願いいいたします。
事務局	ここで市長は公務の為、退席となります。
事務局	それでは、議事の方を進めていただきたいと思います。よろしくお願いいいたします。
事務局	7 会議事項 (1) 審議会等の会議の公開について 事務局は、本日開催される保育所運営審議会について、資料の「審議会等の会議の公開について」の資料に基づき公開の対象となる旨を説明した。
会長	議長は、会議の公開について一同に諮ったところ、全員異議なくこれを了承した。
事務局	(2) 保育園の運営状況について 事務局は、保育園の運営状況、保育園等入所児童数、保育園等の利用の仕組み、保育料の設定、特別保育事業、特色ある保育園運営につ

委員	<p>いて、保育園管理計画の見直しについて資料に基づき説明した。 補足説明 今年度、保育園管理計画の見直しに伴うアンケートを保護者対象に実施予定。</p> <p>2点お願いします。7ページの不能欠損について金額教えてください。</p>
事務局	<p>令和3年度に不能欠損を行い、金額については、保育所負担金が1,544,890円これは、平成10年から26年のもの4人147件になります。保育所使用料については、136,000円、平成19年 1人5件になります。</p>
委員	<p>だいたい同じ方だとは思いますが、皆さん頑張って収納に力を入れていただいて大変ですね。P9ページの一時保育事業ですが、保育士さんの確保が難しく、2園で実施となっていますが、一時保育事業は、お母さん達がとても助かっており大変ありがたく思っています。今後、園が増えていけそうですか？</p>
事務局	<p>要綱の中では、米沢保育園がもう1園指定園となっています。4月ギリギリまで粘りましたが、保育士の確保ができず断念しました。この一時保育事業はニーズがあるため、あきらめているわけではありませんので、今後はそれに向けて保育士を確保していきたいと思えます。保育士が不足しているのは大きな課題だと思っています。</p>
委員	<p>保育士を退職された方たちにぜひ、もう一度復活していただき、よろしくをお願いします。支援システムの導入によって、保育士さん達の業務が軽くなり、子どもに関わる時間が増えると思うので期待していますのでICTを使った方向にどんどん進めてください。</p>
事務局	<p>ここで端末が入りましたので、操作研修に入ります。実際には、お便りの配信は進んでいますが、今後保育士の事務的な部分の軽減については、研修を受けた後入っていきます。8月中旬からは、登降園管理ができるよう努力いたします。</p>
事務局	<p>(3) 子ども・子育て支援事業計画における事業の進捗状況について 事務局は、資料に基づき計画の進捗状況について説明した。</p>
委員	<p>2点ばかりお願いをします。P26に乳児家庭全戸訪問事業というのがあります。長野県あるいは、全国の民生委員協議会の中でも「こんにちは赤ちゃん」事業をやっている所が沢山あります。このこんにちは赤ちゃん事業というのは、生後3、4か月以内に生まれた家庭を民生児童委員が訪問し、お困りの事があったらいつでも相談くださいという事で、民生委員は全ての家庭の構成などをわかっていますので、訪問し、相談を受けています。ところが、茅野市の民生児童委員はそのような事をしていません。この様な事をやったらどうかとの意見もありましたが、この3年間コロナの問題に振り回されていたので、新しい取組という事ができませんでした。</p>

ただ、既にこの事業が実施されているので、二重に民生児童委員がやる必要はないと思います。ただし、全戸訪問をして、問題が出たり、悩み、これは継続して確認が必要などあった場合には、地区の民生児童委員を使って協力しながらフォローする形を作ったほうがよいのではないのかと思います。この事業をやっていくのであれば年に1回または2回くらい、区ごとに情報交流の機会をお願いできればと思います。そうすると、民生児童委員の立場でも、その家庭の状況を別の目で見ながら支援ができるのかと思います。もう1点です。民生児童委員は、国から委嘱されている組織の活動であって茅野市の組織ではないので、そこに交互に壁がしやすいのですが、区に1人は委員がいますので、ここをできるだけうまく使っていただきたい。

今日の説明とは別ですが、茅野市はここで若者に選ばれるまちを目標に立ち上げ、DXも含めて様々な活動をしようとしているわけですが、若者に選ばれるという尺度からすると、働く場所はあるか、医療関係は整っているかということと同時に、子育ての環境はどうなのかという様な大きな選ばれる尺度となる。先ほど説明があったとおり、様々な事業に取り組まれています。行政の事業はこれでおしまいというわけではなく、若者に選ばれる時は、諏訪と比べて茅野が良い、松本と比べて茅野が良いと比較しながら選びます。これだけ沢山の事業を行っているが、それでは、茅野市の事業は他の市町村と比べどうなのか？他の市町村はこの事業をやっているのかどうなのかふれられていない。諏訪圏域だけでも茅野はこの事業は力を入れている、よそは別のところに力を入れているなどを一度整理して見せていただきたい。そうすると若者に選ばれるまちの育児の環境というもの、茅野市はどこに利点をおいているかわかる。更に、茅野市の保育事業のこだわりは何かははっきりしていることによって若者にPRする選ばれるまちの尺度となるので、比較型で事業を見てみることをお願いできないか。それを充実していけば育児と一環な点では若者選ばれるまちとしてほこれるものが生まれてくるのではないかと思います。

事務局  
委員

ありがとうございました。お聞きするという事でよろしいでしょうか

#### (4) その他

アンケートを実施すにあたり、委員の方には素案を郵送にてお送りしますので、ご意見をいただきたい。

教育長

委員の皆さま、本日はありがとうございました。

先ほど、茅野市の保育の特色は何か、こだわりは何か、最も根底的な問いをかけられました。その中で私が思うのは、他と比べて誇れるものの1つは「幼保小連携教育」です。これは群を抜いています。もう1つは読書です。今、ウィズコロナ、アフターコロナの問題の中で新しい保育の方向をどのように作っていくか国もいろいろ提言がなされている。その中で、今年3月30日に文科省から幼稚園、小学校の関係で架け橋プランの方向が出されました。この架け橋プランとは、茅野市がやっているアプローチカリキュラムをやり、スタートカリキュラムの事で、特に5歳児に焦点を置

いて、保育園、幼稚園と小学校の繋がりを考えていこう、そのために各学校、保育園ではスタートカリキュラム、アプローチカリキュラム案を作っていこうというものです。全然やっていない所は大変ですが、茅野市は今あるものにちょっと手を加えれば素晴らしいものができるようになると思います。そんなわけで1つは、幼保連携教育2つは読書。これが茅野市のこだわりで、これを広げていきたい更に進化させていきたいと思います。そんな中、初めて幼稚園ができたのが明治9年、長野県は20年に松本の開智小学校の附属幼稚園ができました。その幼稚園の目的は、学齢未満の幼児の保育と家庭教育の欠点を補う。定員は100人1日4時間以下の保育、毎週23時間と決まっていました。幼稚園ができた時には人手不足で東京の師範学校から3人雇い、人手不足は昔もあった。1時間目は仲間作り。2時間目は遊具をしたり積木をしたり。3時間目は豆を作る。この中で茅野市の場合は、江戸時代末期には南大塩に千人ちょっとで寺子屋が10個あった。学校へ入る前の子どもを預かっていたのではないかと思います。また明治5年に学生が発布されて6歳以上の子どもは預かり所で預かっていたのではないか。そんな歴史がわかれば、もう一度茅野市の誇りや方向性がでてくるのではないか、放課後子どもクラブの問題もそこに解決の方法があるのではないかと思います。いずれにしても茅野市の保育、おおいに自信を持ってそして皆さまにご意見をいただきながら発展させてまいりたいと思います。本日はありがとうございました。

#### 8 閉会

柳澤幼児教育課長は午後8時5分、閉会を宣言した。